

# Intelligent R/W 初期設定ソフトウェア ユーザーズマニュアル

第1.1版

2018年6月1日

日特エンジニアリング株式会社

1. はじめに

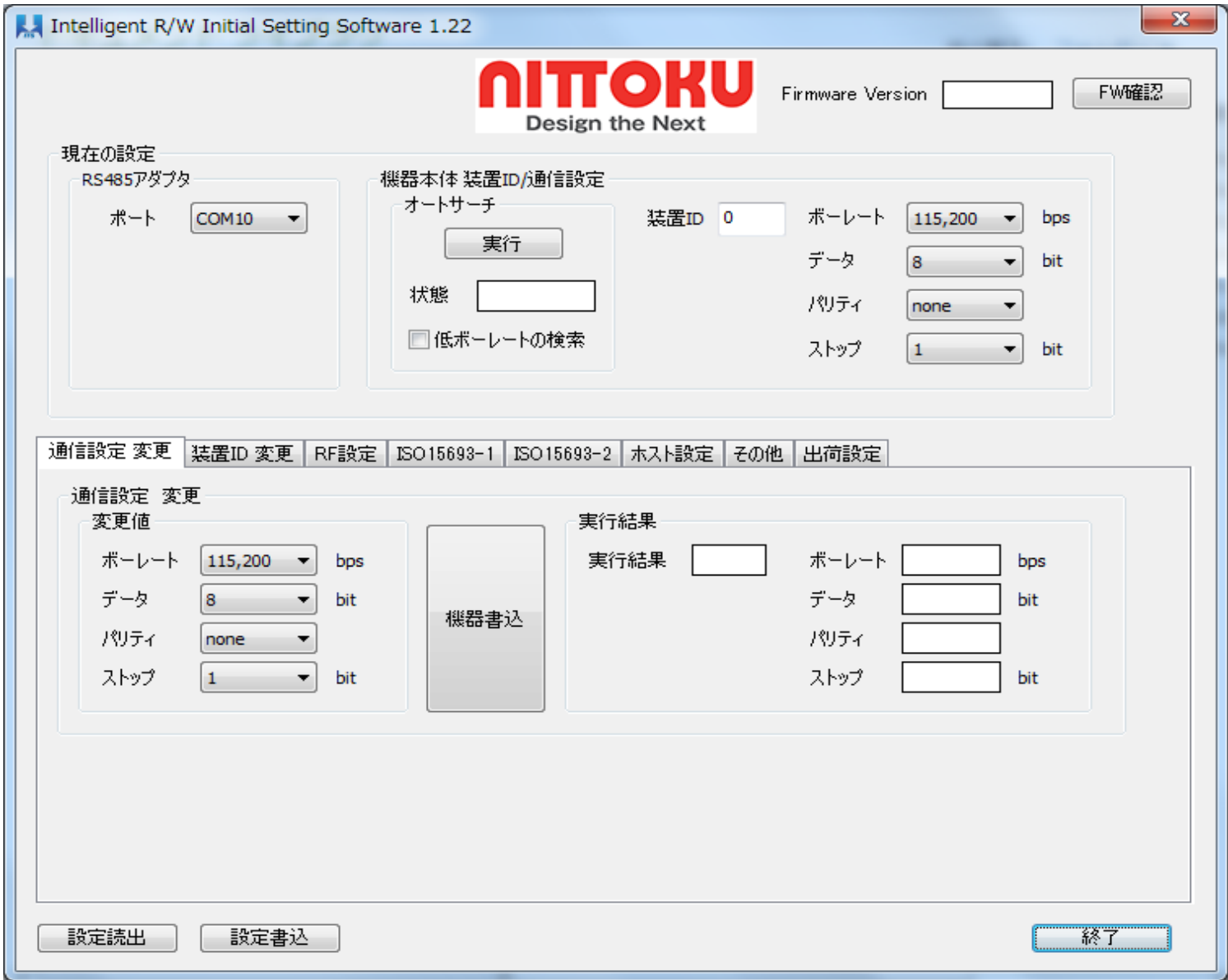
本ソフトウェア仕様書では、Intelligent R/W 初期設定ソフトのソフトウェア仕様について説明します。  
初期設定ソフトは、Intelligent R/WのEEPROMに保存される各種設定（装置ID、通信設定など）を変更するために使用します。

本ソフトは、Intelligent R/W のRS485 IFをUSB IFを通して、PCと接続します。必要な機器、方法の説明は、「モニターソフトウェア ユーザーズ マニュアル」のAppendix を参照ください。

2. メイン画面

下記に初期設定ソフトのメイン画面を示します。

メイン画面は、「現在の設定」枠と、設定変更を行うための複数のタブから構成されます。  
ソフトの起動時、タブは「通信設定」タブが選択された状態で開きます。



2.2 「現在の設定」枠について

「現在の設定」枠は、Intelligent R/WとのRS485通信に必要な設定を行うために使用します。  
Intelligent R/WとRS485通信を行う前に、必ず、使用環境に合わせて設定する必要があります。  
ここでは、PCのCOMポートの設定と通信するIntelligent RWのシリアルの設定が合致しなければ、通信できません。

※「現在の設定」の全てに有効な値が入力されるまで、各タブは全て無効となります。

2.2.1 現在の設定：USB—RS485変換アダプタのPC上のシリアルポート

予め、USB-RS485アダプタは、デバイスとして認識されている必要があります。  
推奨のUSB-RS485変換アダプタは、「モニターソフトウェアユーザーズマニュアル」のAPPENDIXを参照ください。  
Intelligent R/Wとの通信に使用するUSB-RS485アダプタの選択を行うために使用します。

パラメータ		値	備考
ポート		COM**	シリアルポートの選択。設定可能なものから選択

2.2.2 現在の設定：装置ID/通信設定

Intelligent R/Wとの通信に必要な装置ID/通信設定を行うために使用します。  
装置IDおよび通信設定におけるパラメータの仕様は、下記となります。

パラメータ		値	備考
装置ID		0 (default)	装置IDの設定。0～254の間で選択。 ※初期設定ソフト起動後のdefault値は0。
通信設定	ボーレート [bps] (*3)	[01] 600	シリアル通信のボーレートの設定。10個の中から1つを選択。 ※初期設定ソフト起動後のdefault値は115,200bps。 ※600bpsから4800bpsは選択できますが動作の保証はできません。
		[02] 1,200	
		[03] 2,400	
		[04] 4,800	
		[05] 9,600	
		[06] 19,200	
		[07] 38,400	
		[08] 57,600	
		[09] 115,200	
		[10] 230,400	
	データ	[1] 7-bit [2] 8-bit	シリアル通信のデータビットの設定。2つの中から1つを選択。 ※初期設定ソフト起動後のdefault値は8-bit。
	パリティ	[1] none [2] odd [3] even	シリアル通信のパリティビットの設定。3つの中から1つを選択。 ※初期設定ソフト起動後のdefault値はnone。
	ストップ	[1] 1-bit [2] 2-bit	シリアル通信のストップビットの設定。2つの中から1つを選択。 ※初期設定ソフト起動後のdefault値は1-bit。

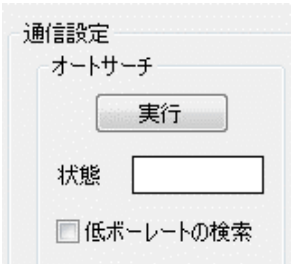
(\*1) 初期設定ソフト起動後のdefault値は、Intelligent R/Wの出荷設定の値となっています。  
(\*2) Intelligent R/Wと通信を行うためには、Intelligent R/W側の設定に合わせて、上記を適切に設定する必要があります。

装置IDと通信設定は、下記のいずれかの方法で入力します。

- ①自動検出：オートサーチによる自動検索
- ②手動入力：ユーザーによる直接入力（既知の場合）

オートサーチでは、装置IDおよび通信設定の自動検索を行い、成功したとき、その値が自動入力されます。

《実行前》



実行ボタンを押すと開始

《実行中》



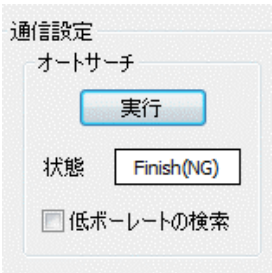
実行中は「中止」ボタンとなる  
(状態枠は「Searching」が点滅)

《終了》成功時



終了後は「実行」ボタンとなる

《終了》失敗時



終了後は「実行」ボタンとなる

[備考]

- ・検索はボーレートの高い方(230,400bps)から低い方に順に行います。
- ・「低ボーレートの検索」のチェックがOFFのとき、9600bpsまで検索します。
- ・「低ボーレートの検索」のチェックがONのとき、9600bps未満も検索します。

※「低ボーレートの検索」のチェックは、Intelligent R/Wの未接続時などに、無駄な検索を少なくするために、デフォルトはOFFとなっています。  
できるだけ9600bps以上で使用ください。9600未満は動作保証できません。

なお、オートサーチに失敗した場合、および、中止した場合、装置IDおよび通信設定の入力値は、自動検索前の値のままとなります。

また、オートサーチに失敗した場合は、下記のダイアログが表示されます。

「装置ID/通信設定のオートサーチに失敗しました。  
Intelligent R/Wの電源およびRS485接続を確認して下さい。」

2.3 ファームウェアバージョンについて

メイン画面の右上の「Firmware Version」表示枠は、ファームウェアバージョンの確認に使用します。

ファームウェアバージョンは、下記のいずれかの操作を行ったときに取得され、表示されます。

- ①「現在の設定」の枠内でオートサーチを実行し、それが成功したとき
- ②「Firmware Version」表示枠の右の「FW確認」ボタンを押下したとき

※ファームウェアバージョンは、未取得または失敗のとき、表示枠は空欄となります。

※上記②の「FW確認」ボタン押下による情報取得に失敗した場合、下記のダイアログが表示されます。  
「Intelligent R/WからのFW情報取得に失敗しました。  
装置ID/通信設定に間違いがないか確認して下さい。」

2.4 各タブについて

メイン画面の各タブは下記の設定を変更するときに使用します。  
詳細については、「3. 各タブの説明」を参照して下さい。

タブ名	機能
通信設定	Intelligent R/W本体のRS485の通信設定を変更するときに使用します。
装置ID	Intelligent R/W本体の装置IDを変更するときに使用します。
RF設定	Intelligent R/W本体のRFに関連する設定を変更/確認するときに使用します。
ISO15693-1	Intelligent R/W本体のISO15693に関連する設定を変更/確認するときに使用します。
ISO15693-2	
ホスト設定	Intelligent R/W本体のホストコマンド/レスポンスの送受信に関連する設定を変更/確認するときに使用します。
その他	Intelligent R/W本体のその他の設定を変更/確認するときに使用します。
出荷設定	Intelligent R/W本体のEEPROMを出荷設定に戻すときに使用します。

2.5 「設定読出」「設定書込」ボタンについて



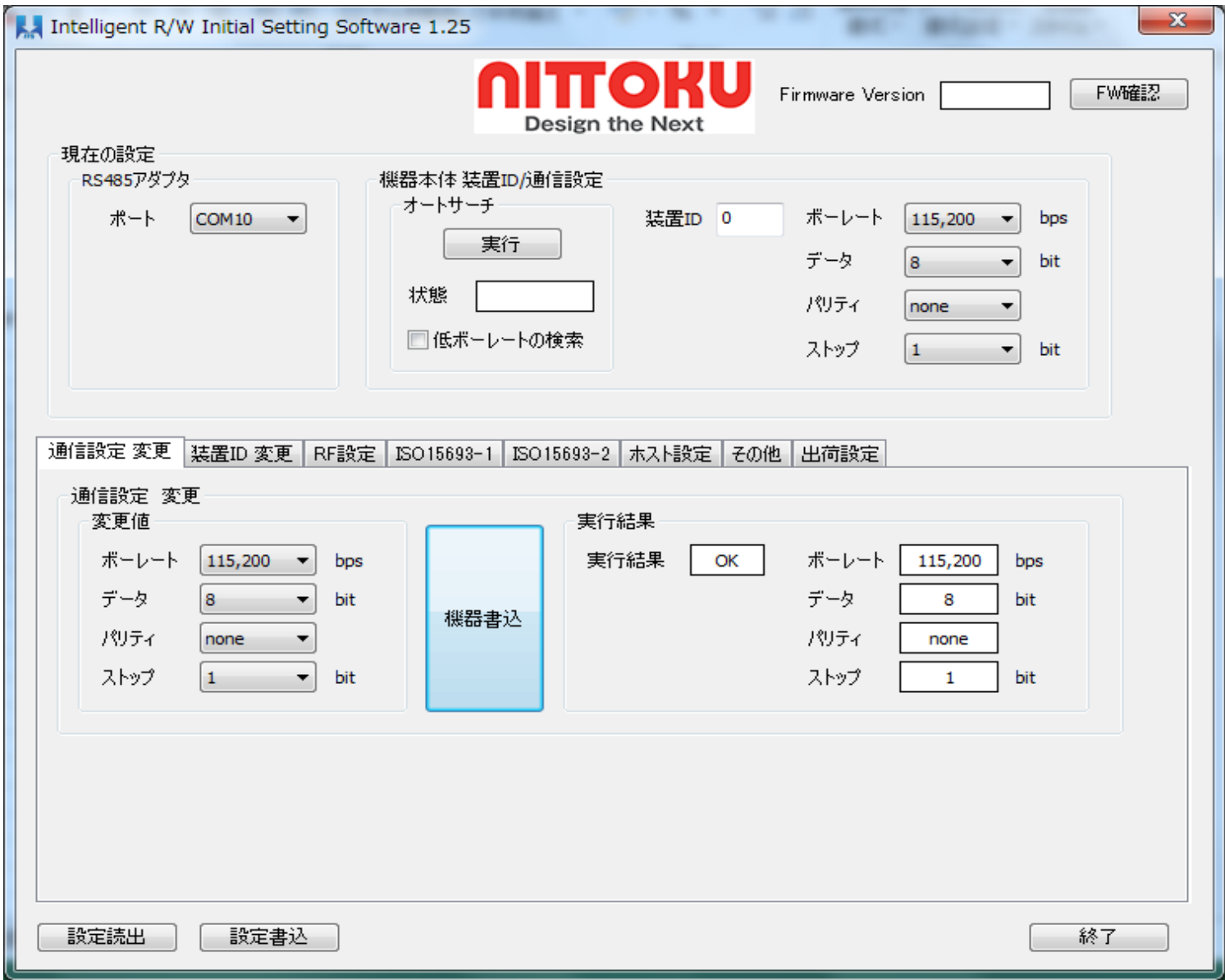
PC上のINITファイルは、設定パラメータを保存または読み出しする機能です。Intelligent R/W(機器)への書込、読出とは別になります。  
メイン画面の下部のボタンは、下記のために使用されます。

- (1)「設定読出」ボタン  
パラメータ設定をINIファイルからロードするために使用します。
- (2)「設定保存」ボタン  
パラメータ設定をINIファイルにセーブするために使用します。
- (3)「終了」ボタン  
初期設定ソフトを終了するときに使用します。

3. 各タブの説明

3.1 「通信設定」タブ

「通信設定」タブは、Intelligent R/W本体のRS485の通信設定を変更するときに使用します。



このタブ内の「機器本体 通信設定 変更」枠はIntelligent R/W本体のRS485の通信設定を変更するときに使用します。  
通信設定のパラメータの仕様は下記となります。

パラメータ		値	備考
通信設定	ボーレート (*2)	[01] 600	シリアル通信のボーレートの設定。10個の中から1つを選択。 ※初期設定ソフト起動後のdefault値は115,200pbs。 ※600bpsから4800bpsは動作保証外です。
		[02] 1,200	
		[03] 2,400	
		[04] 4,800	
		[05] 9,600	
		[06] 19,200	
		[07] 38,400	
		[08] 57,600	
		[09] 115,200	
		[10] 230,400	
	データ	[1] 7-bit [2] 8-bit	シリアル通信のデータビットの設定。2つの中から1つを選択。 ※初期設定ソフト起動後のdefault値は8-bit。
	パリティ	[1] none [2] odd [3] even	
	ストップ	[1] 1-bit	シリアル通信のストップビットの設定。2つの中から1つを選択。 ※初期設定ソフト起動後のdefault値は1-bit。
		[2] 2-bit	

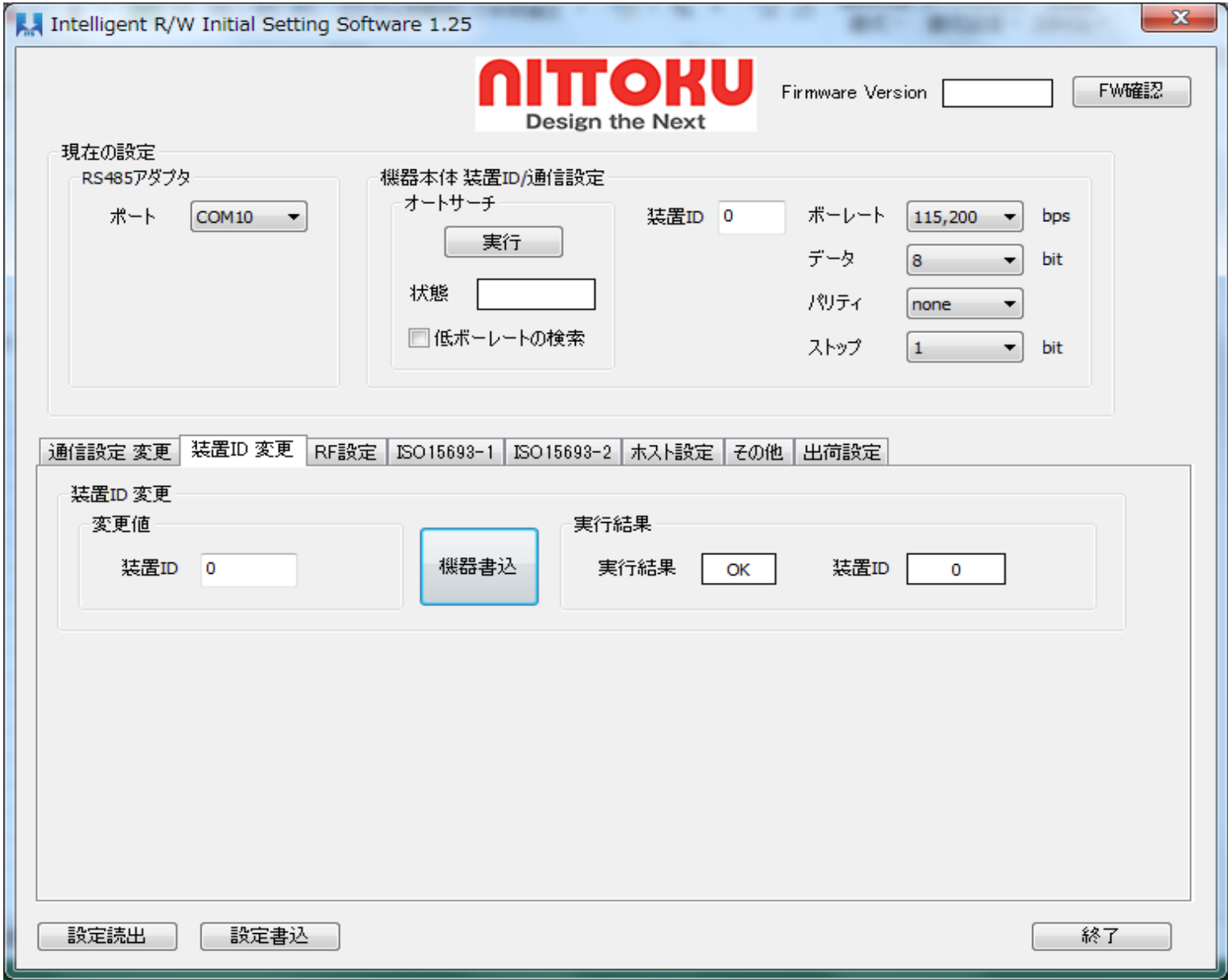
(\*1) 初期設定ソフト起動後のdefault値は、Intelligent R/Wの出荷設定の値となっています。

Intelligent R/W本体の設定変更を行うには、変更したい値を「変更値」の枠内に入力後、「機器書込」ボタンを押します。  
※「機器書込」ボタンは、「変更値」の入力欄の全てに有効な値が入力されるまで、無効となります。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK”、失敗時は“NG”と表示されます。  
※成功した場合、「現在の設定」の通信設定の内容も更新されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

3.2 「装置ID」タブ

「装置ID」タブは、Intelligent R/W本体のRS485の装置IDを変更するときに使用します。



このタブ内の「機器本体 装置ID 変更」枠はIntelligent R/W本体のRS485の装置IDを変更するときに使用します。  
装置IDのパラメータの仕様は下記となります。

パラメータ	値	備考
装置ID	0 (default)	Intelligent R/W本体の識別に使用する装置IDを設定。 ※初期設定ソフト起動後のdefault値は0。 ※0～254の間で設定可能。255は設定不可。

(※1) 初期設定ソフト起動後のdefault値は、Intelligent R/Wの出荷設定の値となっています。

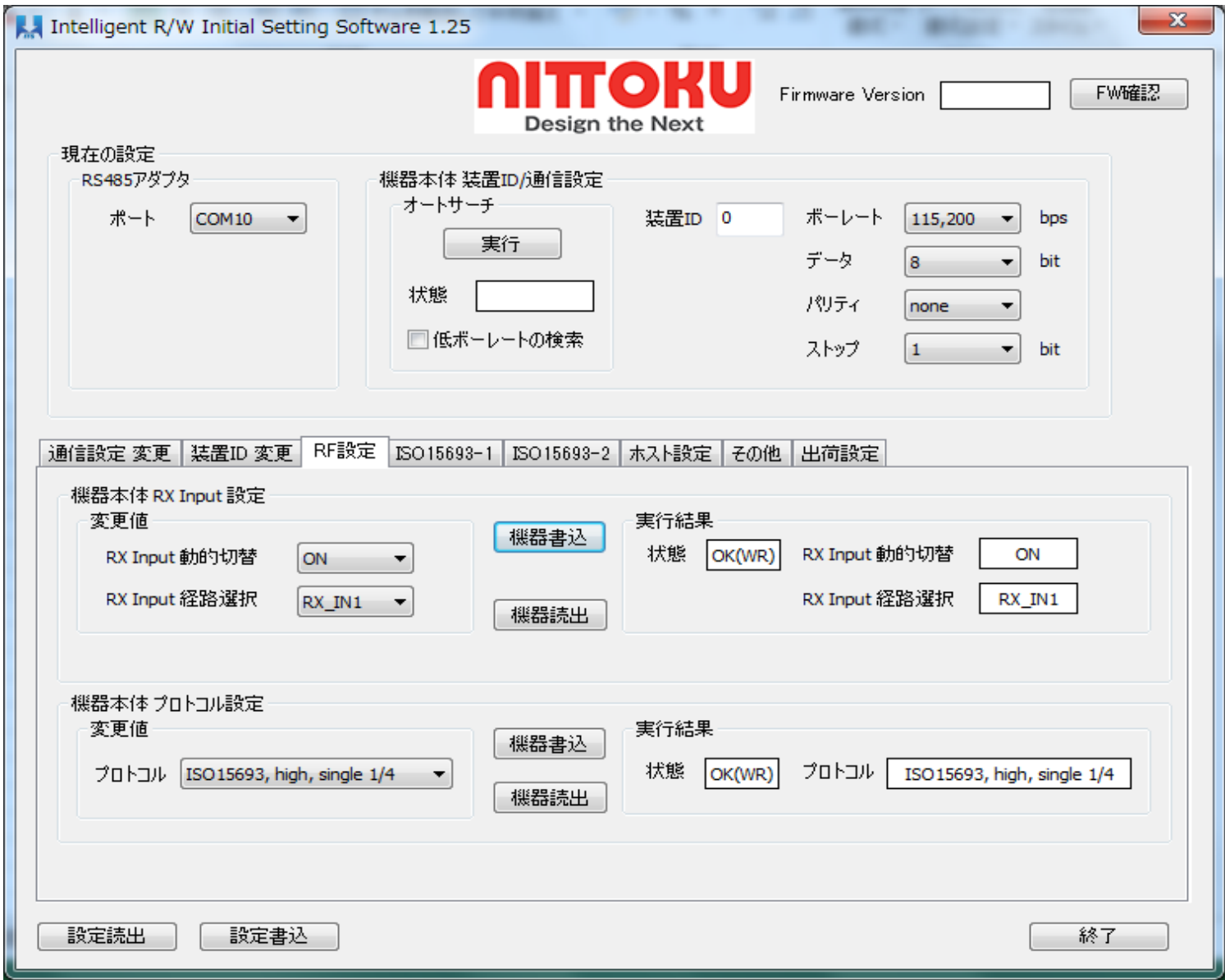
Intelligent R/W本体の設定変更を行うには、変更したい値を「変更値」の枠内に入力後、「機器書込」ボタンを押します。  
※「機器書込」ボタンは、「変更値」の入力欄に有効な値が入力されるまで、無効となります。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK”、失敗時は“NG”と表示されます。  
※成功した場合、「現在の設定」の通信設定の内容も更新されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。



3.3「RF設定」タブ

「RF設定」タブは、Intelligent R/W本体のRFに関連する設定を変更/確認するときに使用します。



3.3.1 機器本体 RX Input設定

この枠内はIntelligent R/W本体のRX Input設定の初期値を変更/確認するときに使用します。  
RX Input設定のパラメータの仕様は下記となります。

パラメータ	値	備考
RX Input動的切替	OFF(default)	動的切替はOFF。
	ON	動的切替はON。
RX Input経路設定	RX_IN1(default)	RF受信入力の主側を選択。
	RX_IN2	RF受信入力の副側を選択。

- (※1) 上記の中から1つを選択できます。  
(※2) 初期設定ソフト起動後のdefault値は、Intelligent R/Wの出荷設定の値となっています。

本R/Wは、受信入力経路がRX\_IN1、RX\_IN2の2経路を持ち、RX\_IN2は、位相が40－90° 遅れています。  
経路RX\_IN1でタグとの交信が成功しない場合でも、経路RX\_IN2で成功する場合があります。  
「RX Input動的切替」をONにした場合は、「RX Input経路設定」で設定された経路で受信し、不成功の場合は、続けてもうひとつの経路で受信します。次の受信時は、成功した経路が保持されます。

- (1) パラメータ設定の変更  
RX Input設定の初期値の変更を行うには、変更したい値を「変更値」の枠内に入力後、「機器書込」ボタンを押します。  
※「機器書込」ボタンは、「変更値」の入力欄に有効な値が入力されるまで、無効となります。
- その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(WR)”、失敗時は“NG(WR)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。
- (2) パラメータ設定の確認  
RX Inputの初期値の確認を行うには、「機器読出」ボタンを押します。
- その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(RD)”、失敗時は“NG(RD)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

3.3.2 機器本体 プロトコル設定

この枠内はIntelligent R/W本体のプロトコル設定の初期値を変更/確認するときに使用します。  
プロトコル設定のパラメータの仕様は下記となります。

パラメータ	値	備考
Protocol設定	IDLE	アイドル (RF出力オフ)
	ISO15693, low, single, 1/4	ISO/IEC 15693 low bit rate, 6.62 kbps, one subcarrier, 1 out of 4
	ISO15693, low, single, 1/256	ISO/IEC 15693 low bit rate, 6.62 kbps, one subcarrier, 1 out of 256
	ISO15693, high, single, 1/4	ISO/IEC 15693 high bit rate, 26.48 kbps, one subcarrier, 1 out of 4
	ISO15693, high, single, 1/256	ISO/IEC 15693 high bit rate, 26.48 kbps, one subcarrier, 1 out of 256
	ISO15693, low, double, 1/4	ISO/IEC 15693 low bit rate, 6.67 kbps, double subcarrier, 1 out of 4
	ISO15693, low, double, 1/256	ISO/IEC 15693 low bit rate, 6.67 kbps, double subcarrier, 1 out of 256
	ISO15693, high, double, 1/4	ISO/IEC 15693 high bit rate, 26.69 kbps, double subcarrier, 1 out of 4
	ISO15693, high, double, 1/256	ISO/IEC 15693 high bit rate, 26.69 kbps, double subcarrier, 1 out of 256
	ISO14443A, 106kbps	ISO/IEC 14443A, bit rate 106 kbps

- (\*1) 上記の中から1つを選択できます。
- (\*2) 初期設定ソフト起動後のdefault値は、“IDLE”です。

(1) パラメータ設定の変更

プロトコル設定のパラメータの変更を行うには、変更したい値を「変更値」の枠内に入力後、「機器書込」ボタンを押します。  
※「機器書込」ボタンは、「変更値」の入力欄に有効な値が入力されるまで、無効となります。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(WR)”、失敗時は“NG(WR)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

(2) パラメータ設定の確認

プロトコル設定の初期値の確認を行うには、「機器読出」ボタンを押します。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(RD)”、失敗時は“NG(RD)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。



3.4 「ISO15693-\*」タブ

「ISO15693-1」タブと「ISO15693-2」は、Intelligent R/W本体のISO15693に関連する設定を変更/確認するときに使用します。

3.4.1 「ISO15693-1」タブ

Intelligent R/W Initial Setting Software 1.25

NITTOKU

Design the Next

Firmware Version

Fw確認

現在の設定

RS485アダプタ

ポート

COM10

機器本体 装置ID/通信設定

オートサーチ

実行

装置ID

0

ボーレート

115,200

 bps

データ

8

 bit

パリティ

none

ストップ

1

 bit

状態

☐ 低ボーレートの検索

通信設定 変更

装置ID 変更

RF設定

ISO15693-1

ISO15693-2

ホスト設定

その他

出荷設定

機器本体 ISO15693 Inventory コマンド関連設定

変更値

タイムアウト

3

 ms

機器書込

機器読出

実行結果

状態

OK(WR)

タイムアウト

3

 ms

機器本体 ISO15693 汎用コマンド関連設定

変更値

タイムアウト

7

 ms

機器書込

機器読出

単一EOFウェイト

7

 ms

実行結果

状態

OK(WR)

タイムアウト

7

 ms

単一EOFウェイト

7

 ms

設定読出

設定書込

終了

3.4.1.1 機器本体 ISO15693 Inventoryコマンド関連設定

この枠内はIntelligent R/W本体の ISO15693 Inventoryコマンド関連設定のパラメータを変更/確認するときに使用します。  
Inventoryコマンド関連設定では、下記のパラメータの設定/確認が出来ます。

Inventoryコマンド パラメータ	default値 (*1)	設定範囲	備考
タイムアウト	15	10～20	ISO15693 Inventoryコマンドのタイムアウトの値を設定します。 ※設定単位はms。

(\*1) 初期設定ソフト起動後のdefault値は、全てIntelligent R/Wの出荷設定の値となっています。

(1) パラメータ設定の変更

Inventory関連のパラメータの変更を行うには、変更したい値を「変更値」の枠内に入力後、「機器書込」ボタンを押します。  
※「機器書込」ボタンは、「変更値」の入力欄に有効な値が入力されるまで、無効となります。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(WR)”、失敗時は“NG(WR)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

(2) パラメータ設定の確認

Inventory関連のパラメータの確認を行うには、「機器読出」ボタンを押します。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(RD)”、失敗時は“NG(RD)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

3.4.1.2 機器本体 ISO15693 汎用コマンド関連設定

この枠内はIntelligent R/W本体の ISO15693 汎用コマンド関連設定のパラメータを変更/確認するときに使用します。  
汎用コマンド関連設定では、下記のパラメータの設定/確認が出来ます。

汎用コマンド パラメータ	default値 (*1)	設定範囲	備考
タイムアウト	15	10～20	ISO15693 汎用コマンドのSOF検出タイムアウトの値を設定します。 ※設定単位はms。
単発EOF ウェイト時間	10	5～20	ISO15693 汎用コマンドの単発EOFのウェイト時間の値を設定します。 ライト系コマンドでオプションフラグを立てた場合、コマンド送信後、 この設定時間経過後に、単発EOFを送信し、レスポンス待ちとなります。 ※設定単位はms。

(\*1) 初期設定ソフト起動後のdefault値は、全てIntelligent R/Wの出荷設定の値となっています。  
(\*2) ISO15693拡張コマンドにもこの設定は適用されます。(内部処理に汎用コマンドが使用されるため。)

(1) パラメータ設定の変更

汎用コマンド関連のパラメータの変更を行うには、変更したい値を「変更値」の枠内に入力後、「機器書込」ボタンを押します。  
※「機器書込」ボタンは、「変更値」の全ての入力欄に有効な値が入力されるまで、無効となります。

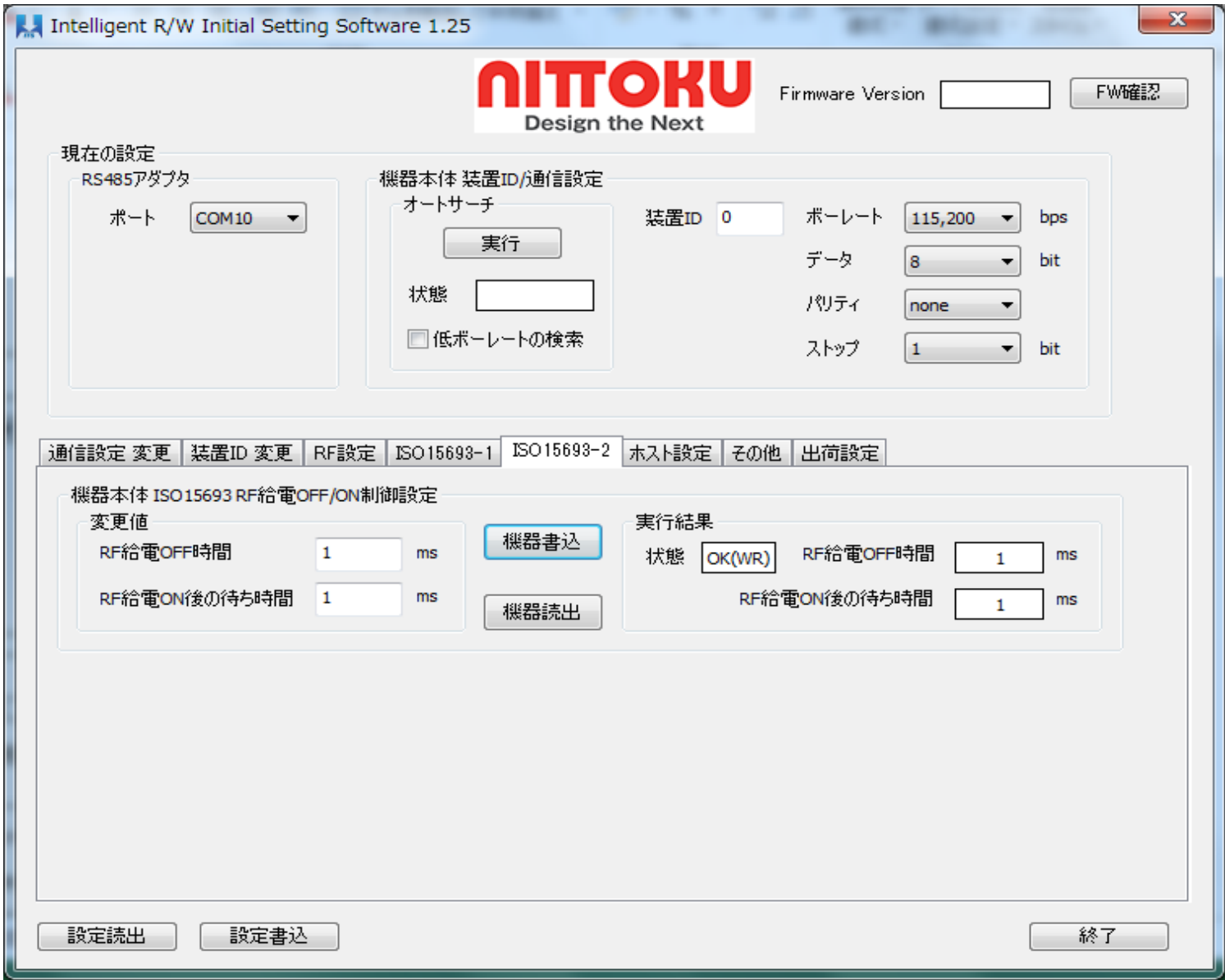
その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(WR)”、失敗時は“NG(WR)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

(2) パラメータ設定の確認

汎用コマンド関連のパラメータの確認を行うには、「機器読出」ボタンを押します。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(RD)”、失敗時は“NG(RD)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

3.4.2 「ISO15693-2」タブ



3.4.2.1 機器本体 ISO15693 RF給電OFF/ON制御設定

この枠内はIntelligent R/W本体の ISO15693動作時のRF給電OFF/ON制御のパラメータを変更/確認するときに使用します。  
汎用コマンド関連設定では、下記のパラメータの設定/確認が出来ます。

汎用コマンド パラメータ	default値 (*1)	設定範囲	備考
RF給電OFF期間	5	0～100	ISO15693 RF給電OFF期間の初期値を設定。 ISO15693タグとの通信において、タグのパワーオンリセットを行う場合に使用されます。 (例)ISO15693タグが動作中で、強制停止する場合など。 ※設定単位はms。
RF給電ON後の 待ち時間	5	0～100	ISO15693 RF給電ON後の待ち時間の初期値を設定。 ISO15693タグとの通信において、タグのパワーオンリセットを行う場合に使用されます。 (例)ISO15693タグが動作中で、強制停止する場合など。 ※設定単位はms。

(\*1) 初期設定ソフト起動後のdefault値は、全てIntelligent R/Wの出荷設定の値となっています。

(1) パラメータ設定の変更

汎用コマンド関連のパラメータの変更を行うには、変更したい値を「変更値」の枠内に入力後、「機器書込」ボタンを押します。  
※「機器書込」ボタンは、「変更値」の全ての入力欄に有効な値が入力されるまで、無効となります。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(WR)”、失敗時は“NG(WR)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

(2) パラメータ設定の確認

汎用コマンド関連のパラメータの確認を行うには、「機器読出」ボタンを押します。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(RD)”、失敗時は“NG(RD)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

## 3.5 「ホスト設定」タブ

「ホスト設定」タブは、Intelligent R/Wのレスポンス送出設定とコマンド受信設定の変更/確認を行うときに使用します。

The screenshot displays the 'Intelligent R/W Initial Setting Software 1.25' window. The 'Host Setting' tab is selected, showing configuration options for RS485 adapter, device ID, and communication parameters. The interface includes sections for 'Current Settings', 'Device Body Device ID/Communication Settings', 'Response Output Settings', and 'Command Reception Settings'. Each section has input fields for values and buttons for 'Execute', 'Device Write', and 'Device Read'. The 'Response Output Settings' section includes fields for 'Wait Time', 'Dummy Bytes', and 'Idle Time', all set to 0. The 'Command Reception Settings' section includes fields for 'Flash Bytes', 'Body Timeout', and 'Reformat Timeout', all set to 0. The 'Execute Result' section shows the results of the operations. The 'Settings' section at the bottom has buttons for 'Load Settings', 'Save Settings', and 'End'.

Intelligent R/W Initial Setting Software 1.25

**NITOKU**  
Design the Next

Firmware Version  Fw確認

現在の設定  
RS485アダプタ  
ポート

機器本体 装置ID/通信設定  
オートサーチ  
  
状態   
☐ 低ボーレートの検索

装置ID  ボーレート  bps  
データ  bit  
パリティ   
ストップ  bit

通信設定 変更 | 装置ID 変更 | RF設定 | ISO15693-1 | ISO15693-2 | **ホスト設定** | その他 | 出荷設定

レスポンス送出設定 変更/読み出し  
変更値  
待ち時間  \* 8us  
ダミーバイト  bytes  
アイドル時間  \* 8us  
  
  
実行結果  
実行結果  待ち時間  \* 8us  
ダミーバイト  bytes  
アイドル時間  \* 8us

コマンド受信設定 変更/読み出し  
変更値  
フラッシュバイト  bytes  
本体タイムアウト  \* 8us  
改行タイムアウト  \* 8us  
  
  
実行結果  
実行結果  フラッシュバイト  bytes  
本体タイムアウト  \* 8us  
改行タイムアウト  \* 8us

3.5.1 機器本体 ホストレスポンス送出関連設定

この枠内はIntelligent R/W本体のレスポンス送出設定の変更/確認のために使用します。  
ホストレスポンス送出設定では、下記のパラメータの設定/確認が出来ます。

レスポンス送出設定 パラメータ	default値 (*1)	設定範囲	備考
待ち時間	0	0～6250	レスポンス送出時、信号ラインをドライブする前のウェイト時間を 設定します。 ※0を設定したとき、本機能はOFFとなります。 ※設定単位は8us。(125を設定したとき、約1msの時間。)  ホスト(PLCなど)のコマンド送信後の信号ラインの解放が遅く、 Intelligent R/Wのレスポンス送出と重なって、信号ラインが衝突し、 データ化けする場合に、ウェイトを挿入するときに使用します。
ダミーバイト	0	0～32	レスポンス送出時、データ送信の直前に付加するダミーバイト数を 設定します。 ※0を設定したとき、本機能はOFFとなります。  設定したバイト数だけ、データ送信の直前に'S'が挿入されます。 受け側(PLCなど)はこの文字を受信して、受信バッファのフラッシュを 行うことができます。  [使用例] 2を設定した場合、NOPコマンドを受信したときのレスポンスは、 先頭に2個の'S'が付加されて、 SS[00FF0CF0010000F100] となります。
アイドル時間	0	0～2500	レスポンス送出時、信号ラインをドライブした後のアイドル時間を 設定します。 ※0を設定したとき、本機能はOFFとなります。 ※設定単位は8us。(125を設定したとき、約1msの時間。)  信号ラインをドライブ後、設定した時間だけ、Mark(論理1の状態)を 挿入したいときに使用します。

(\*1) 初期設定ソフト起動後のdefault値は、全てIntelligent R/Wの出荷設定の値となっています。

(1) パラメータ設定の変更

レスポンス送出設定のパラメータの変更を行うには、変更したい値を「変更値」の枠内に入力後、「機器書込」ボタンを押します。  
※「機器書込」ボタンは、「変更値」の全ての入力欄に有効な値が入力されるまで、無効となります。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(WR)”、失敗時は“NG(WR)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

(2) パラメータ設定の確認

レスポンス送出設定のパラメータの確認を行うには、「機器読出」ボタンを押します。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(RD)”、失敗時は“NG(RD)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

3.5.2 機器本体 ホストコマンド受信設定

この枠内はIntelligent R/W本体のホストコマンド受信設定の変更/確認のために使用します。  
ホストコマンド受信設定では、下記のパラメータの設定/確認が出来ます。

コマンド受信設定 パラメータ	default値 (*1)	設定範囲	備考
フラッシュバイト	0	0～32	コマンド受信時、バッファのフラッシュのために付加するフラッシュバイト数を 設定します。 ※0を設定したとき、本機能はOFFとなります。  Intelligent R/W本体は、設定したバイト数だけ、連続した'M'を検出したとき、 受信バッファをフラッシュして、コマンド受信に入ります。  [使用例] 2を設定した場合、先頭に2個以上の'M'を付加したNOPコマンド MM:00FFF3F00000F000\$ を受信すると、受信バッファをフラッシュして、コマンド受信に入ります。
本体タイムアウト (*1)	0	0（機能OFF） または LV～16777214 (*2)	RS485コマンド受信時、データ本体のタイムアウト時間を設定します。 データ本体待ち状態でタイムアウトが発生した場合、受信バッファを 全て破棄します。 ※0を設定したとき、本機能はOFFとなります。 ※設定下限値(LV)はボーレートに依存します。 ※設定単位は8us。(1250を設定したとき、約10msの時間。)
改行タイムアウト (*1)	0	0（機能OFF） または LV～16777214 (*2)	RS485コマンド受信時、改行コードのタイムアウト時間を設定します。 改行コード待ち状態でタイムアウトが発生した場合、受信バッファを 全て破棄します。 ※0を設定したとき、本機能はOFFとなります。 ※設定下限値(LV)はボーレートに依存します。 ※設定単位は8us。(1250を設定したとき、約10msの時間。)

(\*1) 初期設定ソフト起動後のdefault値は、全てIntelligent R/Wの出荷設定の値となっています。

(\*2) 本体タイムアウト/改行タイムアウトの設定下限値(LV)は、下記となります。

ボーレート [bps]	設定下限値(LV)	
	値	時間 [us]
600	7513	60104
1200	3763	30104
2400	1888	15104
4800	950	7600
9600	482	3856
19200	247	1976
38400	130	1040
57600	91	728
115200	52	416
230400	33	264

(\*1) 9600以下は検討中。

(1) パラメータ設定の変更

コマンド受信設定のパラメータの変更を行うには、変更したい値を「変更値」の枠内に入力後、「機器書込」ボタンを押します。  
※「機器書込」ボタンは、「変更値」の全ての入力欄に有効な値が入力されるまで、無効となります。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(WR)”、失敗時は“NG(WR)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

(2) パラメータ設定の確認

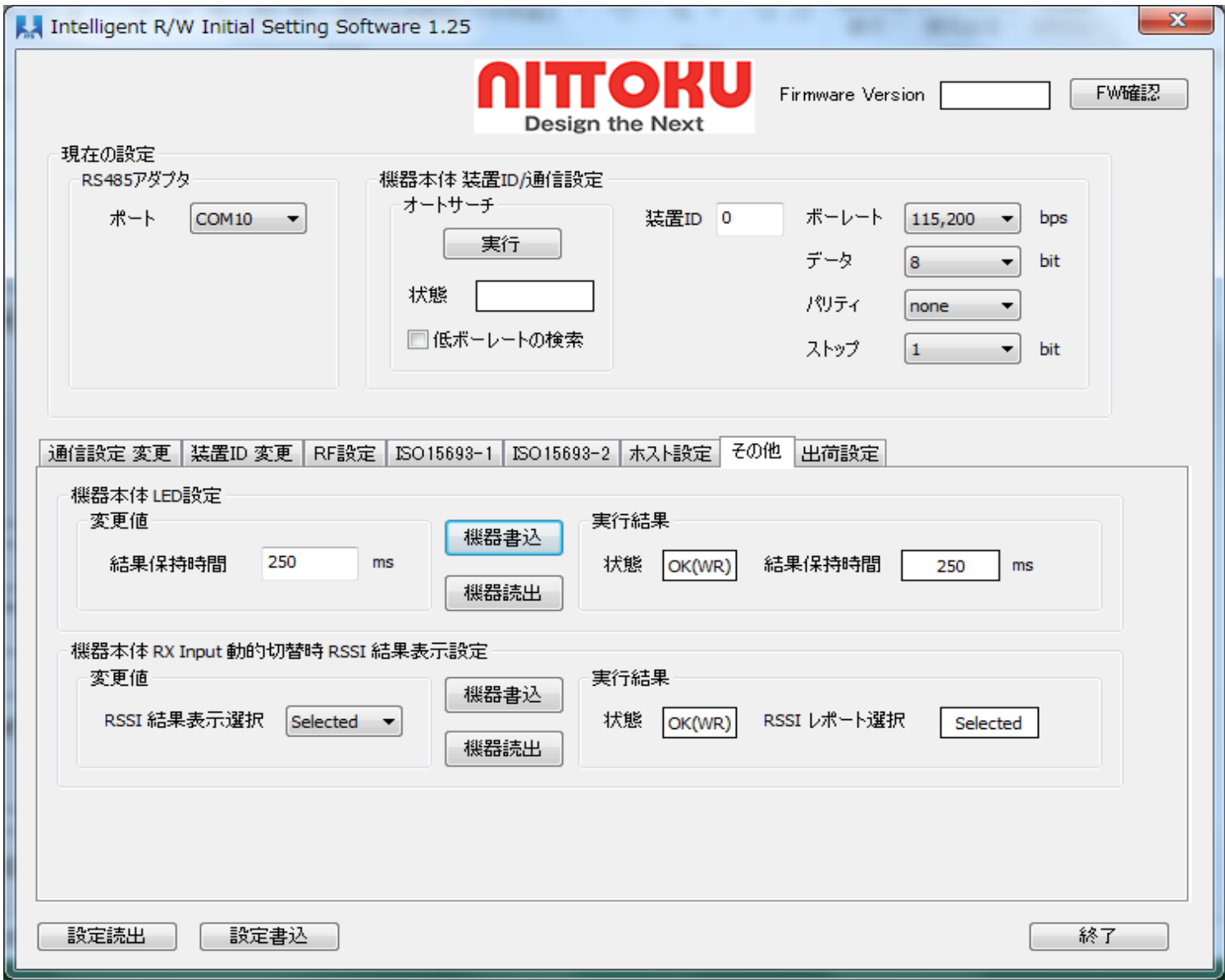
コマンド受信設定のパラメータの確認を行うには、「機器読出」ボタンを押します。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(RD)”、失敗時は“NG(RD)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。



3.6「その他」タブ

「その他」タブは、Intelligent R/Wのその他の設定の変更/確認を行うときに使用します。



3.6.1 機器本体 LED表示設定

この枠内はIntelligent R/W本体のLED表示設定の変更/確認のために使用します。  
LED表示設定では、下記のパラメータの設定/確認が出来ます。

パラメータ	default値 (*1)	設定範囲	備考
タイムアウト	250	0～65534	タグ通信結果をLED状態表示するときの保持時間を設定します。 表示は設定した時間だけ保持され、保持期間経過後に消灯します。 ※設定単位はms。 ※0を設定したとき、本機能はOFFとなります。

(\*1) 初期設定ソフト起動後のdefault値は、全てIntelligent R/Wの出荷設定の値となっています。

(1) パラメータ設定の変更

LED表示設定のパラメータの変更を行うには、変更したい値を「変更値」の枠内に入力後、「機器書込」ボタンを押します。  
※「機器書込」ボタンは、「変更値」の入力欄に有効な値が入力されるまで、無効となります。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(WR)”、失敗時は“NG(WR)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

(2) パラメータ設定の確認

LED表示設定のパラメータの確認を行うには、「機器読出」ボタンを押します。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(RD)”、失敗時は“NG(RD)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

3.6.2 機器本体 RX Input動的切替時 RSSI結果表示

この枠内はIntelligent R/W本体のRSSI結果表示の変更/確認のために使用します。  
※機器本体側のRX Input動的切替設定がONのときに、機器本体はこのパラメータを参照します。

RSSI結果表示設定では、下記のパラメータの設定/確認が出来ます。

パラメータ	値	備考
RX Input動的切替時 RSSI結果表示設定	Selected (default)	選択されたチャンネルのRSSI値。
	Maximum	2つのチャンネルの内、大きい方のRSSI値。

- (\*1) 初期設定ソフト起動後のdefault値は、全てIntelligent R/Wの出荷設定の値となっています。
- (\*2) 機器本体の動的切替がONのとき、RSSI取得コマンドのレポート値が、上記のようになります。
- (\*3) 機器本体の動的切替がOFFのとき、RSSI取得コマンドのレポート値は、常に選択されたチャンネルとなります。

(1) パラメータ設定の変更

LED表示設定のパラメータの変更を行うには、変更したい値を「変更値」の枠内に入力後、「機器書込」ボタンを押します。  
※「機器書込」ボタンは、「変更値」の入力欄に有効な値が入力されるまで、無効となります。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(WR)”、失敗時は“NG(WR)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

(2) パラメータ設定の確認

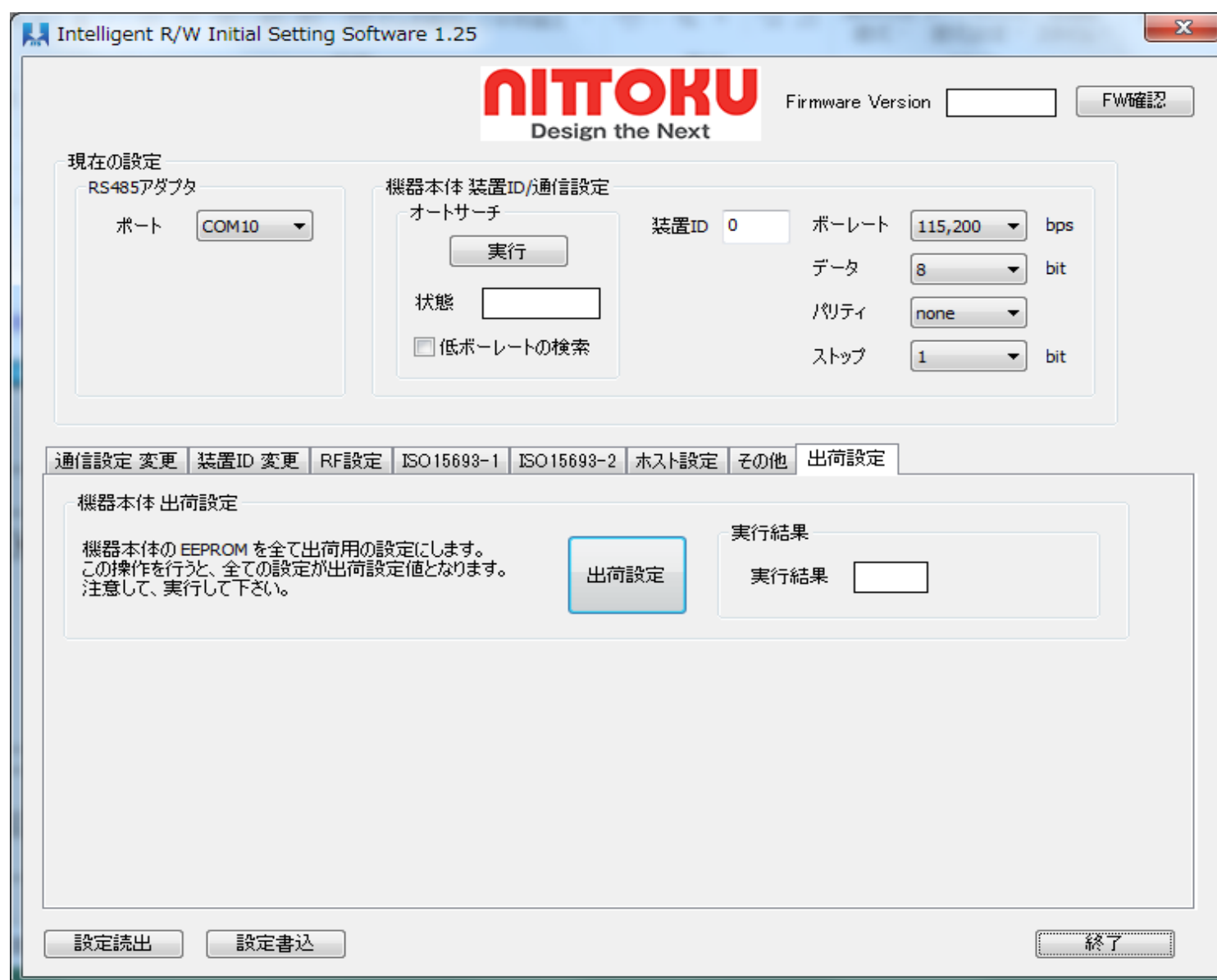
LED表示設定のパラメータの確認を行うには、「機器読出」ボタンを押します。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK(RD)”、失敗時は“NG(RD)”と表示されます。  
※実行結果に依らず、「変更値」の枠内はユーザー入力値が保持されます。

※「RF設定」タブのRX Input設定に関わらず、この枠内の「機器書込」および「機器読出」ボタンは常に有効です。

### 3.7 「出荷設定」タブ

「出荷設定」タブは、機器本体を出荷設定に戻すときに使用します。



#### (1) 出荷設定の実行

機器本体を出荷設定に戻すには、「出荷設定」ボタンを押します。  
※実行する前に、オートサーチなどで、「現在の設定」の「機器本体 装置ID/通信設定」を適切に設定する必要があります。

その結果は「実行結果」枠の「状態」表示欄で通知され、成功時は“OK”、失敗時は“NG”と表示されます。  
※成功した場合、「現在の設定」の通信設定の内容は全てDefault値に更新されます。

3.8 POPUP表示

特定の入力項目に対して、下記のようにPOPUP表示が行われます。

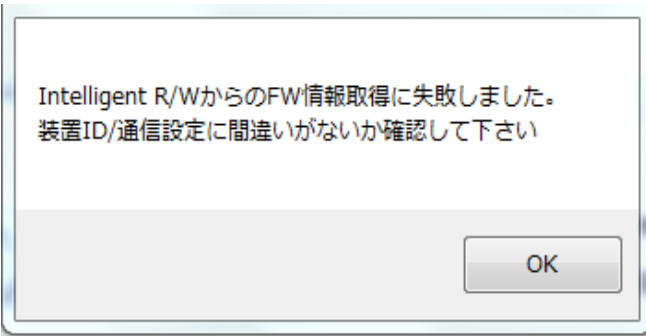
(1)「ホスト設定」タブ

本体タイムアウトと改行タイムアウトの変更値の入力欄に対して、下記のPOPUP表示を行います。  
「機能OFFにするときは0、機能ONにするときは\*\*\*~16777214の範囲で入力して下さい。」  
※\*\*\*には設定下限値(LV)の値を表示。(設定下限値の値は「3.5.2 機器本体 ホストコマンド受信設定」参照。)

3.9 その他

3.9.1 通信エラー時のダイアログ

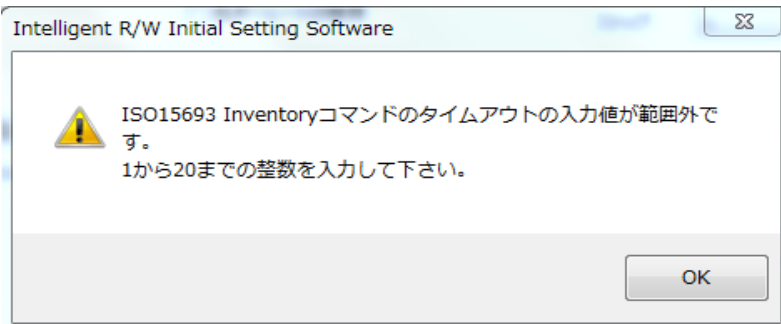
各タブにおいて、タイムアウトによる通信エラーが発生した場合、下記のダイアログを表示して下さい。



3.9.2 変更値確認エラー時のダイアログ

各タブの「機器書込」(EEPROM更新)、および、「設定書込」(INIファイル)のボタンが押下されたとき、書込の処理を行う前に、変更値の枠内のパラメータのチェックを行い、その値に範囲外の値が入っている場合、下記のダイアログを表示して下さい。

※範囲外となるパラメータが複数ある場合、最初のエラー判定となったパラメータを表示します。



タブ	パラメータ		文言
装置ID	装置ID	装置ID	装置IDの入力値が範囲外です。 *から**までの整数を入力して下さい。
ISO15693	ISO15693 Inventoryコマンド	タイムアウト	ISO15693 Inventoryコマンドのタイムアウトの入力値が範囲外です。 *から**までの整数を入力して下さい。
		タイムアウト	ISO15693 汎用コマンドのタイムアウトの入力値が範囲外です。 *から**までの整数を入力して下さい。
	ISO15693 汎用コマンド	単発EOFウェイト	ISO15693 汎用コマンドの単発EOFウェイトの入力値が範囲外です。 *から**までの整数を入力して下さい。
ホスト設定	レスポンス送出設定	待ち時間	レスポンス送出設定の待ち時間の入力値が範囲外です。 *から**までの整数を入力して下さい。
		ダミーバイト	レスポンス送出設定のダミーバイトの入力値が範囲外です。 *から**までの整数を入力して下さい。
		アイドル時間	レスポンス送出設定のアイドル時間の入力値が範囲外です。 *から**までの整数を入力して下さい。
	コマンド受信設定	フラッシュバイト	コマンド受信設定のフラッシュバイトの入力値が範囲外です。 *から**までの整数を入力して下さい。
		本体タイムアウト	コマンド受信設定の本体タイムアウトの入力値が範囲外です。 *から**までの整数を入力して下さい。
		改行タイムアウト	コマンド受信設定の改行タイムアウトの入力値が範囲外です。 *から**までの整数を入力して下さい。
その他		LED設定	LED設定の結果保持時間の入力値が範囲外です。 *から**までの整数を入力して下さい。

※入力範囲(\*から\*\*まで)の文言については、「3. 各タブの説明」中のパラメータの設定範囲を参照下さい。